昭和六年

樺太概要

内閣文庫
和書
類
五四ヒ一七
號
冊
函
架

廳太樺

2
54

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

Microfilmed at the National Archives
Preservation Reformatting Project
Year 2000

昭和六年

樺太概要

樺太廳

292
54717
44

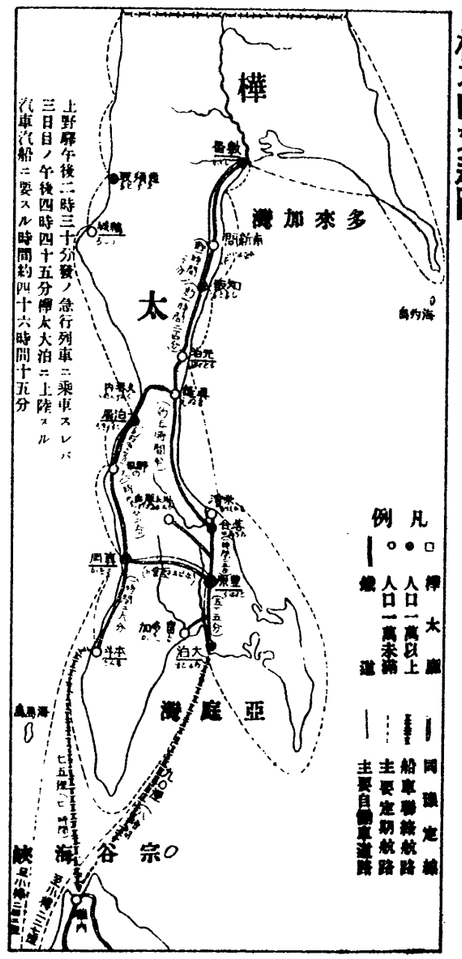
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

昭和六年

樺太概要

樺太

樺太略交通圖



上野驛午後二時三十分發ノ急行列車ニ乘車スレバ三日目ノ午後四時四十五分樺太大泊ニ上陸スル汽車汽船ニ要スル時間約四十六時間十五分

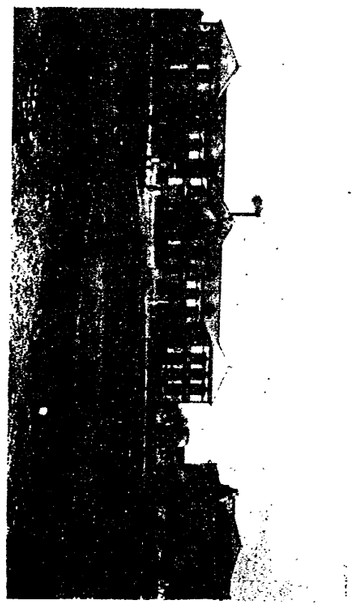
目次

樺太概要目次

第一　地勢……二頁
　位置及面積——地勢
第二　氣象……三
　氣温——濕度——降水量——霜雪——風
第三　戸口……五
第四　行政……七
　組織及歳計——自治制度
第五　産業……一三
　農業——牧畜業——鑛業——水産業——林業

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

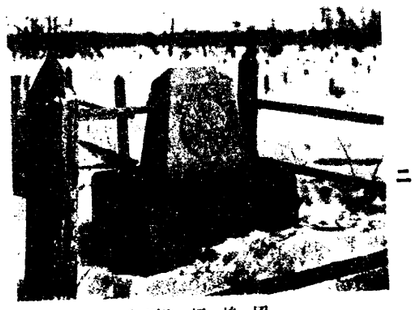
第六　商業……一八
　商業——貿易——金融
第七　教育……二一
　初等教育——中等教育——教員養成
第八　交通……二三
　道路——鐵道——航路
第九　警察……二八
　警察機關——醫事衛生
第十　土人……四〇
　生活狀態——教育
附錄——樺太視察便覽



樺太概要

第一　地勢

【位置及面積】　本島はオホツク海と日本海との間に介在して西は間宮海峡を隔てゝ沿海洲に對してゐる。最南端西能登呂岬は北緯四十五度五十四分にあり、宗谷海峡を隔てゝ北海道宗谷岬と相呼應してゐる。北は北緯五十度を以て露領樺太と境し、延長百十六里餘、幅員は最短七里、最長四十里である。其面積は約二千三百三十九方里で帝國の總面積四萬四千百三十八方里中其五分三厘を占め九州よりは小さく臺灣よりは稍大きい。北海道に比較すれば、約其の二分ノ一に當り朝鮮の約六分ノ一である。



國境標（南面）

【地勢】　本島は地貌及地質によりて之を東部山地帶、中央低地帶及西部山地帶の三地帶に區別する。即ち東側の南北に縦走して北に並行し、其の中間は平低で四字形になつてゐる。

峴内、内淵、鈴谷、留多加の諸川は其間を緩流してゐる。沿岸は概して海岸線の屈曲に乏しく、西海岸は殆ど子午線に並行して頗る單調であるが、南端は魚尾の形態をなして屈曲に富み、中知床岬と西能登呂岬とは東西の尾端となつて亞庭灣を抱いてゐる。

第二　氣象

【氣溫】　月平均氣溫の氷點以上にあるのは四月から十月までの七ケ月で、最寒は一月、最暖は八月となつてゐる。溫度の急昇するのは融雪期で、其の劇降するのは降雪初期である。

各地を通じて、冬季は其の差甚だしく夏季は之に反してゐる。又内部地方は海岸地方に比較して寒暖の度が甚だしい。西海岸は同緯度にある東海岸に比較すれば、孰れの季節を問はず比較的高溫で、本斗は大泊に

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

比較して平均一度餘高く、安別は敷香に比し一度餘高い。之は暖流の影響を受くる爲である。

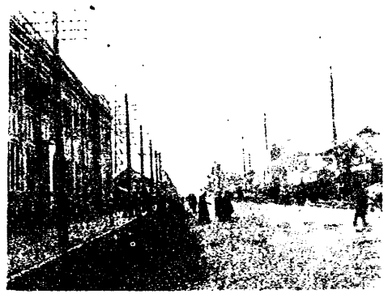
【濕度】　本島は海霧の發生多い爲に濕度は一般に高く、西海岸南部を除いては一年平均八十パーセントに達してゐる。然し春秋兩季には最も能く乾燥し三十パーセントに降ることが珍しくない。總じて本島は對比濕度が甚だ高く概ね濕り勝ちであるけれども、絶對濕度は甚だ低い爲に殊に乾燥し易く、一日中の變化に就いて觀るも其の差は平均二十パーセント内外に上つてゐる。

【降水量】　降水量は一般に夏秋に多く冬春に少い。月量に於て多くて二百五十粍であるし、少いときは十粍に充たない。内部は沿岸地に比較して多いけれども尚年九百粍で、本邦中最寡雨の地として南滿洲の次ぎになつてゐる。

【霜雪】　結霜は九月中旬内部に始まつて十月初旬には全島に亘り、五月下旬には終を告げる。

雪は北部に早くて概ね十月中旬に降り初め、平地の初雪は十月下旬である。各地とも十一月下旬乃至十二月の初旬には既に根雪となる。融雪は普通西南部は四月上旬、内部及北東部は同月下旬になつてゐる。

【風】　平均風向は各地皆風癖を有して一定してゐないけれども、概括すれば四月乃至九月の六箇月は南風で、其の他の六箇月は北風となり、其の北風から南風に變るは期節は各地とも一樣であるが、南風から北風に轉ずる期節は各地多少の遲速がある。之を東北の風向について見るに、西海岸西部では南北風共に東に偏し、東海岸北部では東偏三箇月西偏九箇月である。内部は年中孰れの月を問はず西に偏して、五月乃至七月の三箇月は北風であるが其の他の九箇月は南風である。平均風速度は西海岸南部は最も速く、内部は遲い。沿海地は秋冬の候は速く夏季は遲いが、内部は春季が速く冬季は遲い。



豐原市街

第三　戸口

本島の現住人口は其の大部分は内地人であつて極めて少數の朝鮮人、土人、外國人がゐる。昭和五年末現在の人口は二十八萬四千

九百三十人で、領有當初明治三十九年末の人口一萬二千三百六十一人に比較すれば實に約二十三倍に達し、他に其の例を見ることが出來ない增加率を示してゐる。

種族別戸口（昭和五年末現在）

種別	戸數	人口	種別	戸數	人口
內地人	五五、七五三	二七七、二七九	其他の土人	四	一三
朝鮮人	一、一六二	五、三五九	中華民國人	五八	一七四
台灣人	—	一	露國人	四一	一四八
アイヌ	三六一	一、四三七	獨逸人	一	二
ニクブン	二四	一一三	波蘭人	八	一九
オロツコ	五二	三四六	土耳古	四	一五
キーリン	三	二四	計	五七、四七一	二八四、九三〇

主要都市人口（昭和五年末現在）

大泊町	三二、四九八	元泊村	四、六三九	留多加町	一〇、二六一
知取町	一八、九一五	眞岡町	一五、二三六	敷香町	一二、六五五
本斗町	九、二三八	豊原町	三二、〇〇七	泊居町	一〇、八七六
落合町	一五、一三〇	惠須取町	一八、〇三五		

第四　行　政

【組織及歳計】樺太の中央官廳は樺太廳で、長官は拓務大臣の指揮監督を受け部內の行政事務を管理し、樺太廳長官の權限は、內地の府縣知事の有するものの外鑛務、林務、稅務、鐵道、郵便等に及んでゐる。樺太廳の組織は之を長官々房、內務部、農林部及警察部に分けて、各部に部長を置き事務を分掌せしめてゐる。尙支廳（七）、支廳出張所（二）、林務署（九）、醫院（三）、郵便局（七二）、觀測所、觀測所支所（五）、中央試驗所、中央驗試所支所、鐵道事務所、警察署（一二）、等の機關がある。長官々房は秘書課、文書課、調査課、內務部は地方課、學務課、水產課、土木課、財務課、會計課、鑛務課、遞信課、水產物檢査所及度量

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

衛所、農林部は殖民課、林務課、林業課、警察部は警務課、保安課、刑事課、高等警察課及警察官練習所に分れてゐる。

次に昭和六年度に於ける樺太廳歳入豫算額を見るに、二千六百十二萬三千九百三十六圓で内租税は二百十九萬四千二百三十一圓である。

一、地税　九、六二九圓　此課率は二級に分け一級は地價の千分の五、二級は千分の三を賦課す。

一、所得税　五四〇、三六七圓　樺太所得税令に依り賦課す、其課率は第一種、第二種は内地と同一で第三種は内地税率より低率である。

一、營業收益税　四〇八、五五七圓　營業收益又は資本を標準として賦課する。

一、酒造税　九一一、六三八圓　酒精分を標準として造石高に賦課するもので内地より低率である。

一、出港税　四五八圓　樺太に於て製造した酒類を内地へ移出するときは内地税法と同一率に依り出港税として賦課す。

一、消費税　五〇圓

一、鑛業税　一四四、〇〇五圓

一、漁業税　一七九、五二七圓　從來漁業料として税外收入に屬してゐたが大正十二年より租税に改め漁業權及漁獲高につき賦課す。

租税外收入

一、官業及官有財産收入

イ、郵便電信及電話收入　一八、〇五五、四八四圓

ロ、鐵道收入　二、一二八、五五八圓

ハ、醫院收入　六、七二四、八〇三圓

ニ、中央試驗所收入　二八三、〇八三圓

ホ、森林收入　三二、九六〇圓

ヘ、官有物貸下料　八、七〇四、二七五圓

一、印紙收入　一八一、八〇五圓

一、行政　二九六、〇六三圓

一、煙草専賣益金受入	一、六〇二、四三八圓	樺太に於ける専賣益金を一般会計より繰入れたるもの。
一、雑収入	四八一、九二二圓	
一、官有物拂下代	三二二、五一四圓	
一、返納金	二、〇〇四圓	定期及指置代金の返納
一、公債金	一、五〇〇、〇〇〇圓	失業救済に充当する分
一、補充金	一、六〇〇、〇〇〇圓	
一、前年度剰餘金繰入	七九、二八一圓	
昭和六年歳出概算額は二六、一三九、三六四圓である。		
一、樺太神社費	一三、〇〇〇圓	樺太神社に對する交付金
一、樺太廳費	一、四九八、九七三圓	本廳支廳に於ける経常費
一、教育費	二、二二五、三一三圓	中學校女學校の経費と小學校教員の俸給及旅費
一、警防費	八七八、五九〇圓	
一、林務費	二、〇五五、一〇〇圓	
一、産業費	八、八三四、九三七圓	通信費、鐵道費、農事試驗費、水産試驗費、醫院費
一、中央試驗所費	五〇〇、八三三圓	
一、恩給負担金	二三〇、八五六圓	昭和六年度新設
一、諸支出金	一五二、〇四二圓	
一、公債及借入金諸費	二、〇二八、八九八圓	公債利子及之に伴ふ諸雑費
一、積備金	一八〇、〇〇〇圓	第一積備金、第二積備金
一、土木營繕費	二、三三五、五九八圓	長事業に施行する營繕費及樺太廳の修繕費
一、補助費	二、六四七、八九〇圓	鐵道、電信、道路及船舶に關する經費
一、特別事業費	七四〇、九八五圓	
一、鐵道改良費	二五〇、〇〇〇圓	
一、失業救濟費	一、五〇〇、〇〇〇圓	道路新設改良及船舶修繕に關する經費
一、國勢調査費	一九、九五一圓	

【自治制度】樺太は領有の當初から、移住民は集團して部落を形成し部落民會或は町民會なる團體を作り評議員を選出して部落に於ける共同生活上必要な諸般の事項を審議して之を執行して來た。明治四十二年勅令で比較的發達した部落には部落總代を置く制度を布き、更に取扱事項を制定し次第に自治への向上を圖つた。以來十數年移住民逐年增加し部落の團體制度が益々確立して來たので、大正十年四月法律第四十七號を以て樺太の地方制度に關する件公布され、次で大正十一年一月勅令第二十三號の公布を見、同年四月一日から地方制度が施行されるに至つた。本制度は決議機關である所の町村會に代るに諮問機關たる町村評議會を以てせられること、執行機關たる町村長及其補助者たる助役收入役を官選とした點は府縣の夫に比し趣を異にして居るけれども、土地の狀況や人文發達の程度を考へ事情已むを得ざるに出でたものである。本制度は比較的發達した町村から施行し大正十二年四月には全管内に施行されたのであるが、之を現行制度に比し制度の劃一的なると町村長は官の任命であつて、其の諮問機關である町村評議會は官選の評議員に依つて組織せられる等が重なる差異であるが實際の運用に於ては住民の政治的自覺と多年鄕土に於ける自治的經驗とに依り良好な成績を示したから茲に完全なる町村の自治を圖り、昭和四年三月法律第二號を以て樺太町村制、同年六月勅令第百九十五號を以て同施行令の公布を見、同年七月一日より實施せられ、本島に於ける町村自治の制度茲に完く成備するに至つたのである。

昭和五年四月現在に於ては十六郡十一町二十九村に區劃されてゐる。

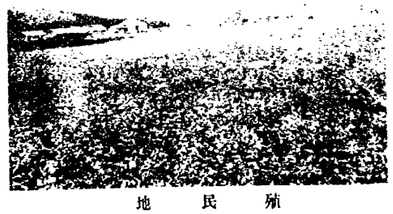
第五　產　業

【農業】本島開拓の行程を見るに露領時代には見るべき成績を擧げることが出來ず無盡の寶庫は空しく荊棘の中に置かれてあつた。然るに明治三十八年我領有となるや開拓の基礎が創めて確立され、爾來二十有餘年各種産業の發達と共に農事諸般の施設經營も着々其の緒に就き農業者戸口も著しく增加し昭和四年には一萬三百七十九戸、四萬七千三十九人となり、農産物生産額は三百三十一萬圓に達してゐる。然れども耕地反別は僅かに二萬七千餘町歩で、農耕適地四十七萬町歩に比すれば其の六分にも足らず、尙裕に數萬の農民を收容する餘地を存してゐるので、本島農業の發展は寧ろ今後の經營に俟つところが多い。本島は北緯四十五

度以北に位するを以て内地北海道に比較して概れ低濕であるけれども、栽培せらるゝ作物の種類には大なる差がない。而も從來栽培不可能とされてゐた水稻さへも今では生産の曙光を認むるに至つた。

食糧作物中到る所栽培されてあるのは麥類、豆類、馬鈴薯、根菜類、葉菜類の各種で麥類中最も多く栽培せらるゝものは燕麥である。大小麥も能く本島の風土に適して生育良好であるけれども販路の關係等によつて年々減少の傾向を示してゐるので之が栽培を促して食糧の自給を期すると共に一面副業の發展を圖らむが爲、製粉精麥事業を奬勵してゐる。豆類中豌豆は最も廣く栽培されて、菜豆、大小豆、蠶豆等が之に次いでゐる。

穀類としては以上の外、蕎麥、粟、玉蜀黍等の各種が生産せ



殖民地

られるけれども、蕎麥を除いては未だ栽培が普及されてゐないので生産額が頗る少ない。

馬鈴薯は燕麥と共に本島に於ける重要作物で、其の作付反別は二千町歩を越え産額は五十三萬三千圓に達してゐる。主として自家用として消費されてゐるけれども、澱粉製造及販賣用として其の儘市場に搬出せらるゝものも少くない。

甘藍は本島の氣候に適してゐるので一箇三貫目以上の優良品を産出する事が珍らしくない。

以上の外蘿蔔、午蒡、胡瓜、茄子、南瓜等の蔬菜類が生産せられるけれども屑く栽培されるのは市街地附近で其の他の地方は自家用を充たす程度に過ぎない。

工藝作物中本島に適するものはライ麥、亞麻、甜菜、薄荷等があるけれども現在利用せられてあるものはライ麥、亞麻の二種である。

亞麻は本島に最も好適した作物であるので樺太廳では優良種子を無償配付して之が栽培を奬勵すると共に製絲工場にも相當補助を與へて農家より原莖を一定價格以上に購入せしめてゐる。而してライ麥は農家は大泊製藥會社と一定の契約のもとに之を栽培して酒精原料として該會社に販賣してゐる。

以上の外將來有望な作物は甜菜である。

中央試驗所の試驗成績を見るに含糖率は十八乃至二十パーセント純糖率は八十五乃至九十五パーセントで遙に北海道品、朝鮮品を凌駕してゐる。

飼料作物としては燕麥、牧草、根菜類、デントコーン等があつて何れも生育良好であるけれども、就中燕麥、チモシー、瑞典蕪菁、家畜ビートは品質優良で他の追從を許さない有樣である。

果樹として一般的に栽培せられて居るものはないが將來有望なのは苹果である。苹果は現在西海岸の中央試驗所宇遠泊支所及同地方に於ける二三の有志によつて栽培せられてゐるが其の成績は甚だ良好である。

【牧畜業】　農家の生計を安定して拓殖の進展を企圖せんとするには今後益々土地の利用を集約的ならしめ所謂有畜農業の奬勵によつてのみ其の目的を達成し得られるので、之が遂行に關しては極力保護奬勵を加へてゐる。本島の家畜は主として牛、馬、豚、鶏等で其の他少數の緬羊、家兎、水禽類が飼養されてゐる。之等畜産の昭和四年末現在に於ける生産額は百四十九萬五千百三十八圓で農産物生産額の約二分の一に達せんとす。

放牧

一、樺太産馬の基礎となつてゐる馬匹を大別すれば在來種及領有後内地から移入せるものとの二である。在來種は體矮少で粗食に耐ふるも負擔力及挽曳力が少く能力は概ね低劣である。領有後廳に於て移入の上農民に貸付けた牝馬や補助金を支給して移入せしめたる牝馬は北海道産及岩手産で、主に「トロッター」「ハックニー」「ノルマン」等の雜種である。移入當初は冬期間の飼養管理に周到の注意を要するも數年を經ずして馴化する。在來種に比較して體が大きく性質温順、能力も優れてゐる。現在はアングロノルマン、ハクニーの二種も奬勵しつゝあり。

本島産牛の基礎となつてゐるものは、在來種及樺太領有後北海道から移入されたものとの二種に大別する。在來種は體格一般に矮少で頭角は朝鮮牛に似たるもの多く寒氣に堪ゆるも劣等種で乳

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

産一箇年平均二石乃至三石に過ぎず四石を泌乳するものは稀である。領有後北海道から移入せるものは主に「エアシャー」種及其の他の雑種である。本島産牛の九割以上は「エアシャー」種であるが、近時「ホルスタイン」種が著しく増加して來た。近い將來には「エアシャー」種を凌駕するであらう。

在來豚の殘存せるものは極めて少ないので何種に屬するかゞ不明である。領有後北海道から移入して貸付けたものは「バークシャー」種、「チエスターホワイト」種との雑種であるが今はその血統に屬するものが殆どない。其の後民間に於て移入せられたものは「バークシャー」種及「ヨークシャー」種で前者は六、七割を占め後者は三、四割を占めてゐる。樺太廳に於ては之等二種を奬勵品種となし試驗場では種畜の配布をしてゐる。

露助鷄と稱する在來種は體は一般に矮少で體重僅に三百匁乃至五百匁で其の産卵數は一箇年五十乃至八十個である。然れども之等在來種は漸次其の數を減じつゝあり近き將來には絶滅する狀態にある。領有後内地及北海道から移入せられたる鷄種は「レグホン」種が最も多く、「ミノルカ」種「アンダルシヤン」種「オーピントン」種其の他數種あるが、單冠白色「レグホーン」種就に横斑「プリマスロック」種を奬勵品種としてゐる。

養狐事業は大正四年廳種畜場に於て飼養試驗をしたのが其の始めで、爾來島内各地に之が飼養者漸次增加し近時堅實味を帶びて來た。最近中央試驗所では巨額の費用を投じカナダから銀黑狐種を取寄せ目下試驗中である。

【鑛業】　本島に於ける鑛物は石炭を主とし石油は之に次ぐ。其の他砂金、含銅硫化鐵鑛及辰砂鑛等が存在してゐるけれども未だ重要なる鑛床が發見されない。

炭田の主要なるものは南部、中部、北部の三大炭田、惠須取炭田、西樺丹炭田及東海岸炭田で第三紀層の下部及上部が發達し含炭層は概れ南北に走り單斜又は向斜をなしてゐる。含炭層は普通二千尺内外に及んでゐる。此等炭層の露頭は概れ南北に延びて二十里乃至三十里に亘り延綿として連續してゐる。本島推定埋藏量約十二億五千三百七十八万瓲の内、水準上一億八千二百九十二萬瓲水準下（二千尺迄）十億七千八十六萬瓲である。本島の石炭は其の性狀に依り之を略左の三種

養狐場

に分けてゐる。

第一種は粘結性強く發熱量強大なるもの、第二種は粘結性微弱又は不粘結性で揮發分の多いもの、第三種は不粘結性で發熱量少く水分多いものである。而して第一種は鎌津炭田及幌岸地方のものが之に屬し、第二種は封鎖區域中の南部炭田の東部及中部炭田の全部竝に惠須取地方のものが之に屬し、第三は南部炭田に屬する吐鼎保炭田が主とし北部炭田及知取、登別、東白浦等の東海岸炭田竝に野田、皆別地方に於ける上部含炭層のものが總て之に屬してゐる。

大平炭鎖（露天掘）

石油は明治四十年樺太廳で鑛山調査をした際、始めて南部西海岸地方にて發見され、其の後本斗町附近、小能登呂、唐佛、野田以北亞牛、越内、知來、名寄及中央凹地帶、眼山、河南地方の諸處に確實なる含油層の布延が認められた。爾來地質構造の關係も又漸く明瞭になり有望視されるに至つた。該含油層は本島第三紀層の上部岩層に廣く介在してゐる模子である。目下試掘中の含油層は南部炭田の石炭層と共に連續し南は十和田、呂馬内附近から始つて海岸に沿ふて北に走り、南名好、吐鼎保を過ぎ遠く本斗町に來て海底に入つてゐる。石油を含有する油砂は柔軟な青色砂岩或は黄色を帶びてゐる白石凝灰質砂岩で、數等の薄層をなし普通厚さは約二百尺位から四百尺までの砂岩及貝岩の累層中に介在してゐる。

【水産業】樺太に産する水産物の主なるものは鰊、鮭、鱒、鱈、鯨、鯨、鮫、蟹、海鼠、帆立貝、北寄貝、鯨、腽肭獸及昆布等で其の年額は二千八十八萬圓に達し、主として鰊、鱒及鮭の定置漁業者竝に約四千戸の定住漁業者に依つて採捕處理されてゐる。定置漁業者の使用する漁船は凡そ二千隻餘で定住漁業者に依つて使用されてゐる漁船が凡そ一萬餘隻に達してゐる。

鰊漁業は其の産額漁業中の首位を占め年額九百八十一萬圓以上に達してゐる。東海岸の國境から北知床岬に至る間及中知床岬より愛郎岬に至る間を除くの外は到る所に漁獲されてゐるが、就中近時最も多く漁獲されてゐる所は亞庭灣内に沿へる大泊、長濱間で、領有當初は最も優秀な漁場であつた。四海岸は漸次減少し

て昔日の觀がない。

鰊製品の主なるものは搾粕であるが、近時身欠鰊並に鰊の製品が次第に其の數を増加して、品質も改良に意を用ゐられてゐる。

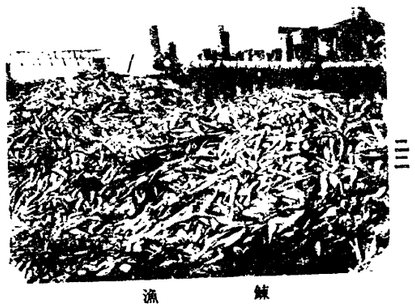
亦近時燻製鰊の製造に從事するものもあるが其の産額は未だ少い。

鱒漁業は鰊漁業に次ぐ重要漁業で、其の漁業區は東海岸各地で就中幌内川を中心として多來加、新問間及内淵川を中心とする元泊、南富内に至る間である。

此の外は亞庭灣に在つては中知床岬、留多加川を中心とする附近の漁場及西海岸に於ては内幌、樂磨附近の漁場及來知志川口附近の漁場は比較的優秀である。

鱒製品及生産額は年額約百十六萬圓である。

鮭は夏期と秋期との二期に漁獲されるが前者は夏鮭又は時シラ



鰊漁

ズと稱し後者を秋アヂといふ。鮭は其の分布區域が狹く豊凶の差が少い。夏鮭は東海岸敷香附近が主で、一漁場の漁獲高六萬貫内外の處もある。秋鮭は西海岸南部地方の多蘭泊、麻内、阿幸及名好川附近並に東海岸は内淵川附近の漁場に多く産し或漁場では三萬貫以上も漁獲する。

鮭の大部分は鹽鮭に造られ其の一部は生賣されて一部は罐詰原料に供ぜられてゐる。近時鮭燻製品の製造を企圖するものもあるが其の産額は甚だ少ない。

鱈は全島沖合一帶に棲息してゐるが主産地としては西海岸の野田方面から南方武意泊に至る間で夏期三箇月を除くの外該漁業に從事してゐる。同地方に於ける盛漁期は所謂春漁季節、即ち二月から六月に至る時期で、此の時期に於ける漁獲高は川崎船一隻で三萬尾乃至四萬尾、發動機漁船一隻で五萬尾乃至十萬尾の多量に及んでゐる。十月から翌年一月に至る秋冬期は出漁日數等の關係で漁獲高は春漁の半にも達してゐない。

鱈は主に棒鱈に製するが温暖なる時期には搾粕や開鱈につくる。其の他晩秋に於ける鱈の一部は鹽鱈として移出されてゐるが、鱈の副産物である鱈肝油は主に肝油製造業者によつて製造され主要なる鱈漁業地には其の工場が建設されてゐる。製品は工業油及藥用肝油の二種で其の産額は例年を通じて二萬圓を超ゆる金額に

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

於て約百二十二萬圓となつてゐる。

蟹の最も多く捕獲せらるゝものは「たらばがに」で全島到る所に棲息してゐるが、就中西海岸及巨椴灣口附近に多く產し專ら刺網を使用して漁してゐる。

明治四十一年以降罐詰製造業勃興して蟹捕獲が盛になつたので之が乱獲に陷ち入れ、蕃殖保護の爲一般に雌蟹及背甲五寸以下の雄蟹の捕獲を禁止し且一定の禁漁期を設くる等力めて漁利の維持を圖つて來た。蟹の大部分は罐詰に製造される。蟹罐詰は大正六年には其の產額十二萬兩貫餘三百餘萬圓に上つたが蟹捕獲高は次第に減少し最近では年產額百六十六萬圓である。販賣は主として米國であるが近時歐洲各國特に英國其の他南洋方面へ其の販路を擴張してゐる。

昆布の分布は頗る廣く全沿岸殆ど產しない所がないが、主なる產地は西海岸及巨椴灣である。昭和五年に於ける產額は約七十四萬圓に上つてゐる。

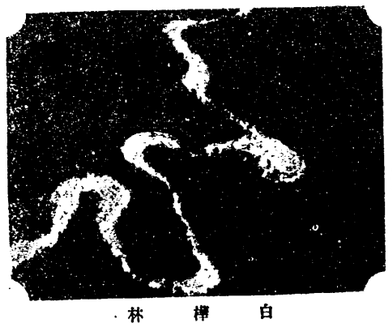
海豹島は我國唯一の鳳凰獸蕃殖地である。明治三十八年樺太の我が領有に歸するや直ちに獵獲を禁止し、明治三十九年から毎年監視員を駐在せしめて專ら鳳凰獸蕃殖保護及調査に從事せしめた。大正元年から之が獵獲を開始したが年々五百五十頭を標準とし獵獲を繼續して來た。終るに大正三年以來上陸頭數減少の傾向があるので大正五年及六年には獵獲を中止した。大正七年からは其の狀態繁殖に復したので再び獵獲を開始し其の後毎年五百五十頭を撲殺して來たが、大正十二年から蕃殖に關係ない老大獸の獵獲をも開始したため、同年は八百二十四頭大正十三年には九百四十二頭、大正十四年には八百六十八頭、大正十五年には一千三百二十二頭を、昭和二年には一千六百八頭を昭和三年には一千五百三十頭を、昭和四年には一千七百五頭を、昭和五年には一千七百十五頭を獵獲した。獵獲の一割は樣約に基いて英米露の各國へ分配することになつてゐる。

【林業】本島の森林は殆ど人の入らない自然林で老壯の樹齡群生し且つ天然の種樹林內に蕃生して後繼森林の素地を造つてゐる。

海豹島

其の面積實に二百餘萬町歩で總面積の三分の二を占めてゐる林種としては針葉樹林が最も多く濶葉樹林や針濶混樹林は之れに亞いでゐる。而して樹種は約百二十二種で其の內喬木は四十九種、灌木は七十三種に分類されてゐるが實際利用價値ある林木はエゾマツ、トドマツ、ダイマツ、イチヰ、シラカバ、ドロヤナギ、ハンノキ及タモ等で之等は殆んど一定してゐる。即ち河岸の底地にはヤナギ、ハンノキ及タモ等簇生してゐるが山岳にはトドマツ、エゾマツ等の針葉樹密生し山岳中腹には白樺を混生し頂上に近づくに從つて白樺の混合歩合を增し遂に白樺の純林となつてゐる。ダイマツは主に低濕地に生じて居るが此等樹種中最も多いのはトドマツ及エゾマツで約八割を占めてゐる。

國有林面積及蓄積の調査は一先づ終了したが其の成績に依れ



白樺林

知取パルプ工場（富士製紙株式會社）

ば邦領樺太の森林原野面積は約三百萬町歩にして立木地二百十四萬町歩、未立木地七十九萬町歩、大學演習林八萬町歩である。昭和元年度より三箇年の計畫を以て林地界を明かにする爲林地區分調査を施行し同三年度を以て完了した。四年度より更に五ケ年計畫を以て全管內既住施業接調査箇所の檢訂を施行し將來の施業計畫を確立せんとするの外新に設置さるべき全島町村に對する基本財產林の豫定地を調査し、併せて施業方法を確立せんとする方針である。

森林は本島主要富源の一で之れが利用の如何は本島產業に直接影響するので種々調査の結果、製紙原料たるパルプに適切なるを認め、且つ國產の自給自足を圖る見地から製紙料として利用するのは最も得策であることが解り、爾來此の方針の下に斯業を奬勵

して來た。その結果漸次隆盛に赴き現在の工場數は豊原、大泊、落合、知取、眞岡、野田、泊居及惠須取の八箇所で之等工場の消費する資材は年々增加し昭和五年には四百十三萬石パルプ生産高約十八萬八千噸に達してゐる。以上の外電柱、杭木建築用材薪炭用材其の他に利用されてゐる。

大正八年より大正十二年に亘り松結蟻(ケアリ)發成し其の蟲害木は急速處分する必要上、大正十一年臨時森林作業所官制を發布し、官營に依る蟲害木の斫伐事業を計畫し、大正十一年より事業を開始し、昭和元年度に於て大體完了を見るに至つた。然るに昭和二年には森林作業所に改稱し、生木の宜行斫伐事業に着手した。

昭和五年一月官制改革の結果、森林作業所を廢し、事業の實行は各林務署に於てし、其の企畫並に監督は林業課に於てなすことになつた。

第六　商　業

【商業】明治三十八年本島占領後自由渡航が許された當時には新領土の通弊として所謂一攫千金を夢みて渡島する商人が頗る多く或は天幕を張り或は小屋掛などして營業する有樣であつたが、爾來幾多經濟界の變動に伴つて不健全分子が驅逐されて着實なる商人のみが漸く其の基礎を確立する樣になつた。又大泊港及眞岡港の開港によつて外國貿易が開始せらるゝや益々商業殷賑を極むるに至つた。

【貿易】樺太生活必需品の大部は北海道及府縣から移入し是等各地方に對しては魚類、木材、パルプ等を移出しつゝある。其の商取引は逐年隆盛に赴き昭和五年度に於ては移入額三千五百三十二萬八千三百六十二圓移出額は四千六百八十一萬九百九十二圓に達してゐる。

外國貿易は明治四十二年三月大泊港の開港によりて開始せられたが大正十一年二月には眞岡港も開始した。其の貿易先は最初殆んど朝鮮、支那、露領亞細亞に限られてゐたが、大正八年以降朝鮮貿易は杜絶し、大正十二年から關東州との貿易を見た。大正十四年には英國、米國及獨逸、昭和二年以來西班牙、埃及、白耳義、蘭領印度との取引を見るに至つた。其輸出入品の種類は主として魚類、木材を輸出し食鹽、石炭、鹽藏魚類等を輸入してゐる。明治四十三年以降大なる進展を見ることが出來なかつたが大正九年の尼港事件後、我軍の駐劄によりて急に活況を呈し貿易額にも異常の增加を來し、大正十年に於ては輸出總額實に八十七萬九千八百二十八圓輸入額四萬四千七百二十五圓合計九十二萬四千五百五十三圓となり貿易開始以來の殷盛をみた。

大正十一年二月には眞岡港の開港を見たが金融逼迫の結果貿易總額は五十七萬五千八百七十四圓に減少した。

大正十二年に於ける輸出額は減少して二十四萬四千百六十三圓となり、輸入額は反對に增加して五十七萬三千七百九十三圓となつた。更に大正十三年には輸出額は五萬三千七百二十一圓に對し、輸入額は四十四萬一千九十五圓の多額に達し差引三十八萬七千三百七十四圓、大正十四年には百二十九萬六千七百七十八圓、昭和元年には九十八萬四千三百二圓、昭和二年には七十萬二千四百三十一圓輸入超過を示し、輸出稍〻ながら昔日の如き輸出超過の傾況を見ることが出來ないが、昭和三年には入超五十三萬九千二百九十四圓で幾分の好況を呈し、昭和四年に於ては一躍六十萬四千百六十二圓の輸出超加を見、昭和五年には輸出百九十八萬七千六百八圓輸入三十四萬七千五百十八圓で輸出超過額に百六十四萬九千圓に至つたのである。

【金融】明治三十八年十月金庫事務取扱の爲めに株式會社北海道拓殖銀行派出所が設置されて傍ら銀行業務の一部を開始したのが本島金融機關の始めである。爾來經濟界の發展に伴つて所謂機關が漸次增設され、遂に明治四十一年一月幾北銀行が設立されて、樺太に於ける中央銀行事務を取扱はしめ併せて一般金融に資すべき所があつた。

然るに明治四十四年拓殖銀行は其の營業區域を樺太に擴張する樣になり、大正三年幾北銀行を拓銀に合併して一層業務を擴張し樺太開拓事業に寄與して來た。

續て大正五年十一月株式會社樺太銀行は島内の有力者に依つて設立され專ら拓殖事業に對し資金を供給し兼て一般銀行業務を行ふことになつた。

昭和四年末現在に於ける預金の總額は千三百五十三萬五千百五十圓で貸付金總額一千五百三萬五千六百十九圓に達した。而して銀行金利は當座預金日歩最高九厘、最低五厘、特別當座預金日歩最高一錢五厘、最低一錢、貸付金日歩最高四錢三厘、最低二錢、荷爲替手形日歩最高四錢三厘、最低三錢六厘、手形割引日歩最高四錢最低二錢である。

次に產業組合の活動は地方開發に直接效果あるを以て大正四年五月產業組合法を施行し、爾來此が設立指導に力めた結果昭和五年末は其の數四十五組合となり其の運轉資金約二百五十萬圓なり。

第七　教育

豐原中學校

【初等教育】　小學教育は初め、總立小學校、私立小學校の二系統があつたが、其の弊害は甚しかつたので大正九年一齊に之を樺太公立小學校に改め、教育制度の改善に關する告諭を發布して教育の方針を示し、鋭意教育の改善振興を圖つた。爾來拓殖の進展人口の增加に伴ひ學校の增設を計り、今では學校の設置してない村落を見ることが出來なくなつた。昭和五年三月現在では尋常高等小學校は六十七尋常小學校は百二十七となつてゐる。

【中等教育】　小學卒業生の增加と共に、中等教育機關の設置が必要となり、明治四十五年四月には大泊に、大正十四年四月には豐原に、昭和二年四月には眞岡に中學校を設立し、外に大正五年四月には高等女學校を豐原に、昭和二年四月には大泊に、昭和三年四月には眞岡及泊居に設置された。

【教員養成】　小學校が增加したのに未だ小學校教員養成の機關がなく教員は凡て內地の各府縣から招かればならなかつた。それが爲に大正七年四月樺太總中學校に小學教員講習所を置いて小學校尋常科准訓導以上の學力を有するものを收容し、尋常小學校本科正教員の資格者を養成することにしたが、越えて大正十一年四月には之を改正して中等學校卒業者若しくは之と同等以上の學力ありと認むるものを收容して小學校本科正教員を養成して來たが昭和二年四月には更に研究科を增置して小學校本科正教員を一箇年間收容してゐる。

以上の外、樺太總高等女學校補習科に師範部を設け終了後は無試驗檢定の上尋常科正教員の免許狀を與へ適宜任用することにしてゐる。

第八　交　通

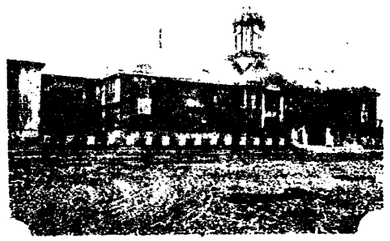
【道路】　本島の道路は地形上海岸線に依らなければならない。從つて幹線道路は東西兩海岸の縱貫線と之を連結してゐる橫斷線等よりなつてゐる。右幹線の外に官公署所在地、樞要都邑等を連絡する爲め幹線より分岐せる路線、農村及殖民部落を連絡する農耕道路等がある。

【鐵道】　本島に鐵道が敷設されたのは明治三十九年で、我陸軍鐵道隊が、六箇月間に急設した楠溪町、豊原間の軍用輕便鐵道が其の始めである。

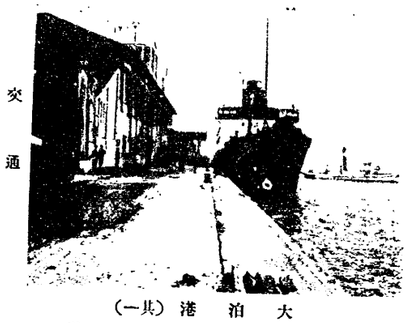
明治四十三年には、既設輕便鐵道が廢止されて大泊、豊原間に普通の鐵道を開設した。超ゑて四十四年には豊原、榮濱間の工事竣工し大泊、榮濱間延長本線九十五粁一が全通した。爾來著々延長されて大正十一年には小沼、川上炭山間全線二一、九粁が運轉し始めた。

首都豊原と西海岸の要地眞岡とを連絡する豊眞線は全長八三、八粁で、大正十年に起工して昭和三年に開通した。西海岸線は全長一三六粁三で、大正七年起工して昭和五年に竣工した。

私設鐵道の敷設許可を與へられたものは樺太鐵道株式會社、



鐵道事務所



大泊港（其一）

南樺鐵道株式會社及內幌鐵道株式會社の三社で、樺太廳では前二社に對して地方鐵道補助法に依つて補助金を交付してゐる。

樺太鐵道株式會社は資本金貳千萬圓で、東海岸落合驛から北境敷香までの延長二三九、二粁の工事に着手してゐるが、昭和二年には落合、知取間一七〇、五粁が開通し、昭和五年には知取南新問間三二粁開通ぜり。全線竣工の曉は邊境附近の開發に資する所が多いであらう。

南樺鐵道株式會社は資本金百二十萬圓で本線新塲驛から留多加までの延長一九、三粁の間で大正十五年に開通してゐる。

【航路】　本島の航路には樺太廳命令航路、遞信省命令航路、鐵道省連絡船及び社外船の四種がある。

樺太廳命令航路は內地、北海道線及沿岸線に大別してゐる。

内地、北海道線は更に大阪線、敦賀線、伏木線、西海岸線、東海岸線の五種に分ける。

大阪線は、大阪から東西兩海岸に至るもので、東海岸に至るものは四月から十月まで、汽船三隻、敷香を終點として十二回、西海岸に至るものは四月から十月迄汽船三隻、惠須取を終點として十四回及汽船二隻で大阪眞岡間を十四回往復する。

敦賀線は四月から十月迄、敦賀、大泊間を汽船二隻で十二回往復する。

伏木線は三線ある。東海岸は四月から十月迄、汽船二隻、伏木敷香間十二回、西海岸は四月から十月迄汽船二隻、伏木、惠須取間十六回、伏木、大泊間汽船一隻、四月から十一月迄七回、西海岸線、函館及小樽を基點とする二線及稚内、本斗間の連絡線からなつてゐる。

函館を基點として海馬島、本斗、眞岡、泊居、惠須取等を經て安別に至るものは汽船二隻、四月から十月迄二十八回、小樽を基點とするものは汽船二隻、夏期は惠須取、冬期は泊居を終點として汽船二隻、夏期七十六回、冬期十九回往復す。

稚斗連絡は汽船一隻、稚内、本斗夏期毎日、冬期は隔日運行して、樺太廳鐵道と鐵道省との連帶運輸をなす。

遞信省命令航路は汽船三隻、函館を基點として青森、小樽、大泊、眞岡間を四月から十一月迄四十八回、十二月から三月迄二十四回往復、樺太廳鐵道と鐵道省線との連帶運輸をなす。

鐵道省連絡船は大正十二年北海道宗谷本線の全通を機として鐵道省が汽船二隻を配して稚内、大泊間を夏期は毎日、冬期は隔日に兩地を航航するもので、同線は本島海運交通史上に一大變改を與へた。

社外船は不定期船で多くは夏期中木材或は特殊物産の運送を目的とするもので、内部の開發に伴つて其の出入年々頻繁となつて來た。

第九　警察

【警察機關】　現在警察部に警務課、保安課、刑事課、高等警察課、特別高等警察課、及警察官練習所の五課一所を置いてゐる。

全島に於ける警察署は十二箇所、警部補派出所三箇所、巡査部長派出所二十四箇所、巡査派出所十三箇所巡査駐在所五十六箇所に達してゐる。職員數は警視三名、警部十五名、警部補二十四名、巡査部長七十五名、巡査二百九十一名で內國境警備員五十名、森林專務員五十名である。然し拓殖事業の振興に伴つて漸次戶口增加し、其區域も擴大し且つ住民の多くは內地各府縣からの移住民である爲に人情風俗を異にし、又交通機關の設備が猶發達の途上にある現狀を以てして滿足なる治安、取締は一雜事であるが一方警察制度着々整備の緖につき又不斷の研究によつて其充實改善を期してゐる。現在巡査一人當り面積は約九十八粁で、人口は七五七人である。

樺太總督豐原醫院

【醫事衛生】　衛生施設が漸次備はるに從つて衛生思想も亦次第に普及發達し、現今では市街地に於ては先づ意を强くするに足るものがある。然し村落に於ては、未だ遺憾の點多く設備の改善へ努力してゐる。なほ本島に於てはコレラ、ペストは未だ曾て發生した事がない。

醫療機關としては豐原、大泊、眞岡に總立病院を設置してゐる外各地に私立病院があつて、醫師二〇六名、齒科醫六二名、藥劑師三九名、藥局二九名がある。人口の比率からすれば、內地及各植民地に比較して寧ろ優つてゐるけれども、本島は人口に比して面積が大である爲に、目下之が充實の計劃中である。

以上の外豐原、大泊、眞岡の總醫院に於て助產婦、看護婦等を養成してゐる。

第十　土人

【生活狀態】　我が南樺太に在住する所謂土人とはアイヌ、ニクブン、オロッコ、サンダー、キーリン及ゞクートの六族種を云つてゐる。彼等は從順で文化程度極めて低く、一般社會の競爭場裡に於ては到底互立が出來ないので農耕、漁業其の他に關して特殊の制度を設けて其の生活を保護してゐる。尙農業を奬勵し又自治思想を養はしめ子弟に教育を授けて彼等の風習を毀たざる範圍に於て自由に文明の惠澤に浴せしめて居る。其の結果土人の優秀なる者は農耕の方法を習得して馬鈴薯や根菜類を栽培して良成績を擧げて居る。又冬期

土人

は伐木製材及運搬等に從事して居るものもある。一般に漸次獨立自營の域に進んで居るが概して貯蓄心なく金錢を得れば直に酒食に費し又は不用の物品を購入する等將來を憂ふの念が全くない。

【教育】　教育所は明治四十二年東西兩海岸のアイヌ族集團部落各一個所に始めて設置し其の子弟を收容して之を教育する外、尙地理的其の他の關係上之を公立小學校に委托して教育する等指導に努めて來たが未だ充分ではなかつた爲に、大正十三年四月部落を適宜合併すると共に教育所も之を六箇所に定めて其の內容は公立學校と大差なく教科書は小學校と同一である。

樺太視察便覽

大泊支廳

一、管内概況

大泊支廳は樺太の最南端に位し宗谷海峡を隔て、遙かに北海道と相對して居る。其の廣袤三百方里餘で邦領樺太全面積の八分の一に當り、大泊、長濱、富内及留多加の四郡大泊留多加の二町及千歳、深海、長濱、遠淵、知床、富内、三郷、能登呂の八ケ村に區劃せられて居る。

一、視察個所及其の梗概

(一)大泊町　戸數　六、三二八戸　人口　三二、四九八人　(昭和五年末現在)

亞庭灣の北澳千歳灣の東岸に位する開港場にして邦領樺太の門口なり。内外の船舶輻輳す。元コルサコフ及ポロアントマリと稱し南部樺太の首都たり。市街は中央の丘陵を以て自然に區劃され、北部楠溪町一帯は官署を中心とせる住宅地帯を爲し、南高地を隔て、榮町及本町一帯は商業地帯を爲し、更に南に延びて、船見町附近海岸地帯は漁業者、船舶業者、運送業者の住宅軒を列れ、市況殷賑を極む。　支廳、町役場、醫察署、中學校、女學校、醫院、觀測所、王子製紙株式會社、東洋養狐場、樺太製藥株式會社等がある。

(イ)　表忠碑　大泊町字楠溪町中央高地　楠溪町驛より約三丁

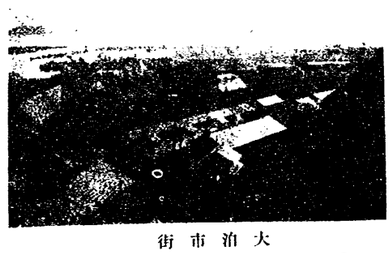
日露戰役に際して、本島占領の偉功を樹てた幾多將卒の英靈を祭祀し、併せて是等將卒の遺骨を埋沒した處であつて、明治四十年十一月建立せられたのである。

長くも今上陛下未だ東宮殿下に在らせられた頃本島行啓の折親しく玉歩を碑前に御進め遊ばされ、忝くも御會釋を賜ふ。毎年七月十二日を卜して招魂祭を擧行する例になつて居る。全島民の尊崇を鎭める所であつて、本島唯一の由緒ある記念碑である。

(ロ)　樺太製藥株式會社　大泊町字山下町畑　楠溪町驛より約六町(約十分)

大正七年合資會社として創設後、組織を變更して株式會社と爲した。(大正十年)本島産ライ麥、馬鈴薯を原料として酒精を製造し、本島特有の「フレッブ」果實を以て「フレブワイン」或は「フレッブソーダ」を釀

アジア経済研究所図書館 Japan Center for Asian Economic Studies http://www.jcas.or.jp/



大泊市街

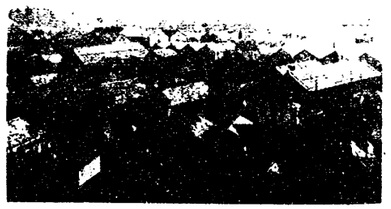
造して産業の振興に努力して居る。

（八）樺太寒天合資會社第一工場　（大泊町字富士）　楠溪町驛より約二十四町自動車にて約十五分

大正九年七月長濱郡遠淵湖に産する石花菜に似た海藻伊谷草の採取權を得て合資會社を組織し、寒天製造を開始した。本製品は其の質優良であつて、今日に於ては内外各地の製菓用其の他に多大の需要を喚起し相當多額の輸出を示して居る。

（ニ）樺太廳觀測所　大泊字中央高地　楠溪町驛より約四町

當觀測所は明治三十八年十月十日の創立に係り、當初は第十臨時觀測所と稱へ中央氣象臺所屬であつたが、明治四十年四月樺太廳の開廳と共に同廳所管に移され前來の觀測を繼續してゐる。敷香、眞岡、落合、本斗、安別に支所を置き西能登呂、東白浦、



大泊市街

富内、久春内、北名好、海馬島の各地には簡易觀測所を設けて居る。東經百四十二度四十六分、北緯四十六度三十九分に位し、海面上の高さ三十六米三を有し中央高地一帶及鈴谷留多加亞庭灣の北部を望むことを得て眺望絶佳である。

（ホ）王子製紙株式會社パルプ工場　大泊町字王子　大泊驛より約六町（自動車にて約三分）

本工場は當初三井物産株式會社に於て、樺太紙料工場として操業すべく大正三年十一月工場を完成し、同年十二月操業に着手し種々研究の結果端典製品に劣らないパルプを製造して居る。其の後幾多の曲折を經て大正十年八月王子製紙株式會社に依つて買收せられ今日に及んで居る。

（年産額一萬六千二百四十噸價格二百九萬四千九百六十圓從業

員約三百四十人）

（ハ）亞庭神社　（大泊驛より約八町）

大國主命、事代主命、市杵島姫命、御食津神、磐田別尊の五柱の神を祭祀し奉る。例祭は毎年八月十日で殷賑を極める。

（ト）南樺公園　大泊町字王子區劃外（大泊驛より約七町）

王子製紙株式會社敷地内に在る。丘上方展望すれば、大泊市街及亞庭灣を一眸の中に收めることが出來る。大正十四年八月畏くも今上陛下攝政宮の御當時本島に行啓遊ばされた時、本公園に御展望所を設け奉り御展望あらせらる。

（チ）神樂ケ丘　大泊町字神樂ケ丘　大泊驛より約十町

行樂の地として本丘に軟草を踏み、行厨を開いて一日の清遊をなすものが甚だ多い。大泊町當局は本丘を公園となすべく計畫を樹て、種々努力して居る。

（リ）樺太冷凍株式會社　大泊町字船見町海岸埋立地（大泊驛より約十町）

當會社は大正十四年資本金五十萬圓を以て創立し鰊、鱒、鮭冷藏鯖等の冷凍事業を興し、其の事業成績も亦相當に擧つて居る。

作業は毎年五月以降の漁期中であるから、視察時期は五月以後が好い。

（ヌ）大北産業株式會社樺太養狐場　大泊郡千歳村南貝塚　貝塚驛より約二十町（徒歩約三十分）

本養狐場は大正七年創立せられ種狐は北米合衆國カナダ産の移入銀黑狐である。目下種狐三百餘頭を飼育して居る。

視察期は一月より四月迄は交尾分娩期の爲樓覽拒絶となつて居るから七月以後が良い。

（二）日露戰役樺太遠征軍上陸記念碑　大泊郡深海村女麗（大泊驛より陸路三里）

本記念碑所在地は明治三十七年露國と國交斷絶し干戈を交へるに至るや、獨立第十三師團長原口兼濟中將の率ゆる將卒を分乘せる十三隻の運送船及四十九隻の艦艦に護衛せられ、明治三十八年七月七日午後一時三十分其の南軍竹内旅團が始めて上陸した地點であつて、本島領有の第一歩を印した所である。之を永遠に記念せんが爲地元有志相謀りて記念碑の建設を圖り全島的に淨財を募り大正十五年七月其の竣工を見た。大泊港より發動機船の便（往復九月）あるが定期的のものではない。往復の賃銀壹圓六十錢二時間を要する。

又陸行徒歩すれば約三時間かゝる。

（三）富内湖　富内郡富内村自大泊町富内村に至る陸路十六里二日を要す
大泊驛より豊南驛に下車同所より自動車にて二時間にて達す

本湖は鱒者として山嶽或は湖畔に迫り、或は遠く開き風光明媚で天然的大公園を形成し、時に扁舟を湖上に浮ぶれば喜々として游ぶ水鳥雲いて飛翔し、又銀鱗偶々靜寂を破つて水面に跳る等まさに仙境に遊ぶ樣な感がする。將來は本島内外人士の避暑地として謳はれる樣になるであらう。

（四）江浦、濱路海岸

大泊を基點とする泊埜本線新場驛より南樺鐵道に乘換へ濱路驛に下車して樺太の大漁場として有名な濱路海岸に遊ぶ。四月末より十一月上旬迄鰊の漁獲あり。夏季は殊に鮭、鱒群來し壯觀を呈する。其の他夏季干潮の際には北寄貝の採取等に遊園地として好適である。停車場を去る南西の二町位の所に沼がある半鹹水であつて面積十五萬餘坪附近に「ナヽカマド」生ひ茂り、秋季紅葉して風光誠に絶佳である。殊に昨年小樽新聞主催の本島八景の一に選定せられた所である。

濱路小學校附近初夏の候鈴蘭の花美しく咲亂れ、秋季には樺太特産の「フレップ」が紅い實を結び美麗の觀を呈する。

二、小原、大豊、豊榮の農村　留多加驛より徒歩小原迄一里五町、大豊迄四里半、豊榮迄七里半
（自動車の便あり）

何れも本島有數の大農耕地として知られて居る。主として野菜、燕麥、馬鈴薯等を產し、甘藷の試作も行つて居る。地味も肥沃であつて年を追ふて移住する者尠くない。

備考

一、特產品

（イ）フレップ酒　一本　一四十錢　四合瓶
特　三圓五十錢　同

（ロ）ウキスキー　一本　上　二　圓　同（製造發賣所製藥會社）

並　一圓三十錢　同

上等並等品は二合瓶、一合瓶あり。

（ハ）フレップ飴　一瓶　六十錢（大泊　村山菓子店）

（ニ）フレップ餅　一箱　八十錢（大泊　片川商店）

（ホ）帆立貝柱之粕漬　一罐　一圓三十錢

二、旅館二十六七軒あり

宿泊料は一泊四圓、三圓五十錢、三圓

北海屋本店は（五圓五十錢、七圓、十圓）

三、自動車

貸切自動車は一時間一人四圓、町内隨所に行くことを得

乘合自動車は町内一回片道十錢にして榮町、大通、榮町、本通、本町大通、楠溪町大通を區間とするものにして其の間諸所に乘降場あり。

豐原支廳

管内概況

本島の中央部を占め二郡六ケ町村より成る。東は「オホツク」海に南は大泊、留多加の二郡、西は眞岡野田の二郡北は元泊郡に接す。管内を内潤鈴谷の二大川貫流して、廣漠たる沃野を成して居る。面積約三百八方里であつて、邦領全樺太面積の約一割三分に當り、東西二十里、南北三十三里に亘り人口六萬三千二百四人、之を其の面積に比較すれば甚だ稀薄であるが本島の中樞部に在る關係上教育、産業其の他相當見るべきものがある。且つ年と共に發達の傾向を示して居る。

視察個所及位置其の他

豐原町　戸數　六、二一〇戸　人口　三二、〇〇七人（昭和五年末現在）

樺太廳を始め各官衙學校の所在地であつて、本島第一の平原たる鈴谷原野の中央に位し、島内交通の中

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

豐原町

心である。市街は地味肥沃なる植民適地を以て圍繞せられ、東西十三町南北十四町に及ぶ。東西南北縱橫に十五間幅の大通を設け、十間道路を以て、之を六十間四方の區劃とし、更に其の中央には八間道路を設け之を小區に分つて居る。市街中最も繁華なのは大通及西一條通で商店、工場、旅館、旅亭、劇場、銀行、會社等軒を連ね、樺太廳を始め諸官衙、學校、住宅等は主に東一條以東に在る。鐵道本線は此の地を過ぎて東海岸榮濱に至り、東西樺太を連結する豐眞鐵道の通ぜられてから島內交通の集軸を占めて居る。

本豐原町に存する官公衙學校其の他を擧げれば次の如くである。

官公衙　樺太廳、樺太廳鐵道事務所、豐原支廳、豐原郵便局、豐原林務署、豐原町役場、度量衡所、豐原醫院、豐原警察署、樺太地方裁判所、豐原區裁判所、博物館、專賣局出張所、札幌刑務所樺太支所、西一條郵便局、商工會議所

學校　豐原中學校、豐原女學校、小學校三校

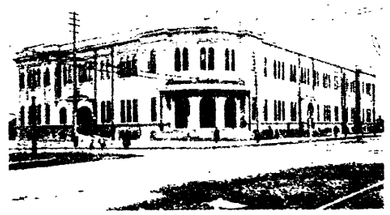
主なる銀行會社　北海道拓殖銀行豐原支店、樺太日々新聞社、王子製紙樺太分社豐原工場、樺太電氣株式會社、樺太合同運送株式會社支店、樺太炭鑛株式會社、北門銀行豐原支店

交通機關

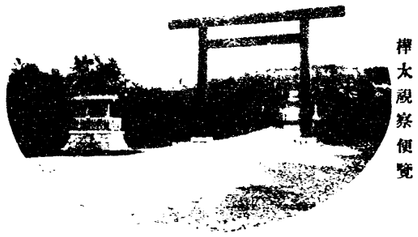
自動車　市內五十錢　借切一時間約四圓

乘合馬車　市內三十錢　舊市街路切以上三十五錢

夜十二時以後及降雨の際は賃銀割增



豐原郵便局



官幣大社樺太神社

特産品

(イ)	富貴濱 一罐	七十錢以上
(ロ)	フレップ飴 一箱	八十錢
(ハ)	蒟ジャム 一罐	四十錢
	フツツブジャム	三十五錢
(ニ)	バター 一個	九十錢以上
(ホ)	シオラ 一籍	大 二圓 小 一圓

(イ) 官幣大社樺太神社

豐原驛より東に約二十町自動車五十錢馬車四十錢

皇國の極北を安らけく鎮護し給ふ

樺太神社は市街の東方旭ケ丘に鎮座在します。祭神は大國魂尊、

大己貴命、少彦名命の三神一座である。社殿は明治四十二年の創建に係り、翌四十四年八月鎮座式を執行し、毎年八月二十三日を以て大祭が行はれる例になつて居る。

神殿幾十級宮柱太しく靈神さびて社殿の莊嚴なる神威自ら身に迫る様な感じがする。境内亦幽邃閑雅で眺望絶佳、鈴谷平原一體を一眸の中に收む。豐原市街は歴々として指呼の間に在る。

(ロ) 縣社豐原神社　豐原驛より北へ十二町自動車馬車の便あり

市街の北方北豐原に鎮座まします。明治四十一年建立せられ、天照皇大神、豊受大神、明治天皇、昭憲皇太后の四神三座を祀る。昭和三年十一月御大典に際し縣社に列格せられ遠近の尊崇が厚い。

境内に明治三十八年七月本島占領の際戦死傷病歿者の英靈を祭祀する樺太招魂社がある。

(ハ) 樺太廳博物館　市内東五條南一丁目豐原驛より順路十三町自動車五十錢馬車三十錢

博物館は舊樺太駐屯軍司令官々舍で五月より十月に至る間開館し、本島唯一の觀覽施設たらしめたのである。爾來觀覽者年と共に增加し昭和二年には植物、動物、水産、林産、農産、鑛産、土俗及歴史參考品等の各部を設け整理改革して内容の充實を計り、陳列品は殆んど本島特有のもの計りで學術上の好參考資料

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

たることを得ると同時に本島の事情を知るため視察者の見逃すことの出來ない施設の一である。開館は毎年五月一日より十月末日迄であつて昭和四年度の視察者總數は二萬四百餘人に達せんとする有樣である。

（ニ）王子製紙株式會社構太分社豐原工場　豐原驛より北へ十五町自動車の便あり（五十錢）

市街の東北端に在る。工場敷地四十一萬餘坪原動力六千百七十馬力、汽力二千五百三十馬力を使用し規模も所謂る大きい。蝦夷松、根松等の針葉樹を原料とし、亞硫酸パルプ、包装紙を製造し、其の生産年額三萬五千百九十五噸、パルプ四〇、六三九噸、洋紙五、七二四、九〇一封度、價格五百六十一萬三千四百六十一圓を算す。

豐　北　村

（イ）小沼中央試驗所及其の他　豐原驛より六哩六分之一等汽車賃二十八錢

昭和四年九月從來の農事試驗場並に水産試驗場の兩機關を廢止すると共に、小沼に中央試驗所を創設し基本産業を興し、又海陸未開の天然富源を開發し殖産興業を奬め、以て島運進展に貢献する所あらんとするものである。其の事業の概目を擧ぐれば次の如くである。

1、農業畜産、林業及水産に關する研究調査試驗分析、鑑定講習及講話

二、種子、種苗、種畜、種卵其の他の研究調査又は試驗の結果に因る物料等の處理、育成、製造、配布、貸付

毎年六七月より九月迄の間は視察するに最も好季節であつて新緑の間に牛羊の逆息する情景はさながら一幅の畫である。

先づ小沼驛に下車中央試驗所視察の上小沼部落に點在する殖留外人（領有以前より居住し、神人と我が國に歸化せると同樣）の生活狀態を調べ名物露助パンに舌鼓を打ち更に美狐場（近年民間の飼養者增加）及養鱒場を視察するのが正い。

（ロ）川上溫泉　豐原驛より北二つ目の驛小沼に下車川上線に乘換へ川上驛に下車東川上驛の北一里

これは冷泉であつて、鹽化ナトリウムを多量に含有し、冷性から來る諸症に効能ありと傳へられてゐる。

宿泊の便利があるから、春秋相當の浴客がある。（豐原驛より汽車賃五十錢、入浴料五錢、一泊二圓）

（ハ）川上炭鑛　本豐原小沼驛より分岐する樺太鐵道線川上線の終點に在つて、樺太鐵道の大泊より四十五哩ある。

鑛區は鈴谷川の上流地方より内淵川に沿ひ、其の上流に延びる廣大なる地域に亘り其の延長約三里半に達し、本島に於ける最も主要なる中部炭田中に在つて所謂内淵炭田の南端に位し、三井鑛山株式會社の所有に屬して居る。

地質は下部第三紀層で砂岩、貝岩、礫岩の互層より成り含炭層は厚さ約二千尺、其の間例明して居る炭層は總て二十五層ある。是等の炭層中主要なるものゐ下層より上層に向ひ順次一番乃至十四番層と稱し此の内開坑せるものは一、二、四、七、八、九、十、十四番層であるが現在は七、十、十四番層の三層を稼行して居る。

地勢は南に高く北に從つて順次低下し、炭層露頭の最高所は海拔約一千二百尺に達して居る。

當鑛區は封鎖區域であつたが、大正二年五月二十八日福岡縣人藏内保房之が採掘の競爭入札に落札し、其の後東京岩崎幸次郎愛知縣櫻井貞次郎を經て大正五年三月二十日現鑛業權者三井鑛山株式會社に採掘權を移轉せられ今日に及んで居る。昭和五年の出炭量は二十三萬九千六百八十三瓲であつて本島全出炭高の約三分の一を占めてゐる。

炭質は何れも漆黑で光澤を有し、大體に於て不粘結性で堅く、灰分少く發熱量七千カロリー内外を有し所謂冴物炭として歡迎せられ、汽車用に供せられる外家庭用として最も好適である。

現今の販路は島内鐵道沿線に止まるも目下同社に於て施行中の大泊港埠頭石炭積込設備の完成と共に島外移出も可能であり又島内開拓の進展に伴ひ將來數十萬噸の年產を見るに至るだらう。

落合町

戸數　三、〇三五戸
人口　一五、一三〇人

東海岸榮濱の稍南に位し、泊榮線沿線の要地であつて、樺太鐵道株式會社の經營する樺太鐵道は此の地點より起り、東海岸を長驅して南新問まで延びて居る。元ガルキノウラスコエと稱へ十數個の一寒村に過ぎなかつたが、大正七年製紙工場が設置せられてから、急激な發展振りを示し、數年ならずして市街地が出來上つてしまつた。且つ附近に肥沃なる農耕適地と奥地に豊富なる炭田を擁するのであるから之が開發と相俟つて、將來益々發展するであらう。落合町役場、富士製紙株式會社落合工場其の他新開社、會社、工場等がある。

富士製紙株式會社落合工場　落合驛より北へ十町、馬車自動車の便あり

大正四年日本化學紙料株式會社の創立され同七年大字落合に工場が設けられて後十一年富士製紙株式會社に合併して專ら「サルファイトパルプ」を生産して居たのであるが、其の後事業を擴張して「クラフト」紙の製造に着手し目下盛んに生産してゐる。生産額パルプ六〇、二五三噸、洋紙五九、八〇九、二四六封度、價格千三百九十二萬一千四百六十七圓に達してゐる。

榮濱

（イ）蟹罐詰製造工場　榮濱驛より南へ十三町

樺太水産株式會社の經營に係り生産高一日約千個價格四百圓營業期間は毎年四月より十一月末迄であつて、水産製造品としては蟹罐詰、鰊、鮭の燻製等である。

（ロ）榮濱物産陳列場　榮濱驛より北へ二町

村營であつて主として「アイヌ」族の古代使用して居た石器、土器、其の他土人使用品を蒐めて居る。

尙管内水産物、林産農産品等なも陳列し一般に觀覽に供して居る。

（ハ）白濱土人部落　榮濱市街より歩行六里鐵道に依るときは落合經由白濱驛まで約二時間半を要す

大正十年豊原支廳管内に散在してゐた「アイヌ」族を此所に集め、教育所及白濱振興會を設立して蒙昧な土人の訓育、啓發並保護、誘導に努めて居る。此の結果漸次本邦文化に慣れ二十四五歳位迄の者は大部分日本文字を解し將來の惡習は日に月に改善せられつゝある。現在戸數八十戸人口三百十人、就學兒童六十三名に達して居る。資性温順にして多くは漁業に從事し冬期間は伐採事業に從ふ。

白縫村

保呂試驗林　保呂驛の西方約三町

大正十四年秋より播種植樹の試驗を開始しつゝあり。本春中央試驗所設置せられ林業部の制定せられると共に本試驗林は林業部の管理に屬し林業の實地試驗を行ふところとなり、其の運用に依つて本島林業の進展に貢獻せんとしつゝある。視察時期は六月より十月迄が良い。

元泊支廳

管内概況

元泊郡は南樺太東海岸の中部に位し、帆寄、元泊の二村並に知取町に分れ、總面積は二百二方里餘である。

東方は渺茫たるオホツク海に面し、南方眞縫川分水嶺を以て榮濱郡に、西方は中央分水嶺を界として鵜城郡に北方は大鵜取殖地區劃地北端より分水嶺に沿ひ、新間嶽に連繫する一線を以て敷香郡に接す。

南部は突阻山、中部は東觀内保山、北部は知取山を巡る山丘連亘起伏して平坦地に乏しく、只諸川の流域又は海岸に小平地を有して居る。

現在人口は其の大部分内地人であつて、極めて少數の朝鮮人、土人及外國人あり。總戸口五千三百五十六戸、人口二萬五千九百人である。

管内生産業の主なるものは漁業、林業、工業で農業、鑛業之に亞ぐ。

視察個所及位置其の他

（イ）突阻山　白石澤驛より三里三十町山麓まで三時間にて達す

海拔六百七米奇峰毅然として連山を壓す。山の中腹より頂上に至る間一面の寒帶植物繁茂し、七月上旬より八月中旬頃迄の間百花撩亂所謂御花畑を現出し眞に偉觀を呈する。山麓より六合目頃迄は大小の滝水沫を立て奇岩を縫ふて落下する。絶頂より視野數里の展望を恣にすることを得る。

（ロ）馬群潭櫻山　馬群潭驛の西北約一里三十町

全山一帶樺太深山櫻密生し、大和櫻に比べることは勿論出來ないけれども、草花の乏しい樺太に有つては觀賞に値する。山道は至つて緩坂であるから老幼婦女子でも容易に登ることが出來る。觀櫻季節は毎年六月二十日頃が好適である。

（ハ）元泊船入澗　元泊驛より約十三町に位す

天然港灣を形成する元泊港は古くから好錨地として知られ、大正九年樺太廳は巨額を投じ、完全な船

入潮を設置して以來、大小船舶の出入多く東海岸に於ける好錨地である。

（ニ）富士製紙株式會社知取工場　知取驛より西北十町自動車馬車の便あり

本工場は大正十三年五月起工し、同十四年六月大山火の爲類燒したが直に再工事に着手し、翌十五年十二月採業を開始したものであつて、製紙工場として東洋一の稱がある。

三百六十餘尺の大煙突は天を摩して雲表に聳へ年約六十萬石の原木を消化し、新聞紙、マニラボール、乾燥パルプ、模造紙等を生産す。生産額パルプ九、七九七噸、製紙八一、九三七、六五三封度、價格九百六十一萬一千八百五十四圓に達す。

（ホ）知取炭鑛　知取驛の西北約十五町

鑛區は北部封鎖炭田の南端に位し、登帆炭鑛株式會社の所有であつて富士製紙株式會社知取工場の附屬炭鑛である。地質は上部第三紀層であつて現在稼行して居る炭層は三層あつて其の厚さは四尺乃至六尺に及んで居る。炭質は不粘結性で焚料炭に適し、本島に於ては中等炭に屬する。大正十三年五月より採炭を開始し、昭和五年の出炭量は約十一萬四千瓲である。

（へ）知取川流送の狀況　知取驛より西北約八町

知取驛より生産する原木約六十萬石は五月より九月迄の間此の河川によつて流送せられるのである。五六月頃延々數里に亘る流木水面を覆ふて流下する情況は實に壯觀である。又流送夫の鳶を使用し流木を渡る機敏な動作は實に巧妙鮮かなるものがある。河口左岸には二基の「ロックホール」を設備す。

（ト）遊仙閣　知取驛の西北十八町自動車馬車の便あり貸銀自動車馬車共一圓

硫化水素を主成分とする鑛泉湧出し、浴場及宿泊等の施設完備して居る。（宿泊料一泊四圓）同所は知取川流域の沿岸に在つて奇岩聳立風光又絶佳である。

敷香支廳

管内概況

敷香支廳管下は邦領樺太の北部を占め、面積八百五方里に及び、帆内川域内を縱斷して流域には廣大な沃野發達し、東北部の山地には森林鬱蒼として繁茂して居る。

馴鹿の群

沿海は古來鱒、鮭の漁場として知られ、夏季は温暖で冬季は快晴よく續き農牧、林業、水産業等盛んである。泊岸、内路、敷香、散江の四村に分れ、敷香には支廳、林務署、警察署、觀測所支所等の諸官衙がある。戸數四千六百二十戸、人口二萬三千餘で内地人の外オロッコ、ニクブン、アイヌ等各種土人か住居して居る。

視察個所及位置其の他

（イ）海豹島　北知床岬の南方五里の海上に在り敷香より發動機船で七時間

一に「チュレニ」島又はロッパン島と云つて居る。「オットセイ」の保護地として世界に名高い。「オットセイ」は初夏本島に來り仔獸を分娩し、秋季寒冷の季節に入ると南方に去る。

島上にロッパン島と稱する島群居するもの數十萬鳴聲耳を聾せしめる。「オットセイ」は保護條約に依つて捕獲を禁ぜられて居る。長さ六町幅三、四十間叢爾たる岩礁で殆んど樹木は生へて居ない。視察の時期は六七月頃が好適である。

（ロ）多來加湖　敷香より發動機船で約三時間

本島第一の大湖であつて、多來加灣頭に横はる。東西十里南北の廣い處四里一條の砂嘴を以て海と隔つてゐる。

フレト、ルクタマ、オソ、ケウリ等の諸川之に注ぎ、多來加川を以て海に瀉水す。湖畔處々にオロッコ族居住し、多來加川湖と連る所にアイヌ部落がある。湖中特殊の大鮒を産す。多來加川は鰊魚の溯上多く年産二萬餘圓を超え、河畔多來加部落の活計を維持するに足る。

陸路敷香支街より多來加灣に沿ひ東方五里餘道路は不坦ならざれども自動車の便がある。冬季は馬橇犬

橋あり。視察の時季は冬寒とも其の目的に依つて選ぶ方が良い。

（八）國　境　北緯五十度の國境線は敷香内路より軍用道路を北すること各二十七里の所に在り

國境附近は鬱蒼たる密林生ひ繁つて殆んど窮まる處を知らぬと云ふ原始的の狀態にある。此の天然も摩す樺々たる密林は北緯五十度線に當る點に於て伐り拂はれ東西に長く一條の境界は劃定せられ、其の要所要所には石造の國境標が建てられ、邦領に面した石表には十六葉菊花の御紋章が盛り上がる樣に彫られて居る。軍道修築完成すれば自動車を通ずることが出來るけれども、現今は保惠迄十里の間自動車を通ずるのみである。冬は馴鹿橇の便がある。

内路敷香起點として上敷香、保惠、氣屯、半田の各驛遞があつて宿泊設備を有し、距離各六里乃至八里往復徒歩で五日を要する。

自動車は一里一圓見當、馬は一日十圓位である。

（ニ）ムイカ孵化場　幌内川支流ムイカ川の合流點約一里の川上に在り

從來鮭鱒の溯上夥しく、天然産床として有名であつたが、樺太廳に於て大規模の孵化場を設置し昭和四年より其の事業を營んでゐる。

（ホ）オタツミ土人部落　敷香市街より約半里

ニクブン、オロツコ土人を集合せしめ、部落として教化の實を擧げんが爲め、昭和元年其の實行に着手した。現在定住の者十數戸ある。

敷香市街より船を賃して往復約二時間で視察することが出來る。

（ヘ）ツンドラ（凍土）地帶

幌内川流域に發達せる茫々たる地帶である。敷香市街より舟を傭ひ約一里半幌内川を溯航すれば、此の景觀に接することが出來る。

（ト）幌内川

露領サガレンに源を發し多來加灣に注ぐ長さ七十餘里樺太第一の大河である。

河畔ツンドラが發達して居るから河水常に黄濁して居る。鱒鮭多く溯上し、又其の蕃殖の源である。

又流域一帶森林繁茂し、地味肥沃なる所が多いから漸次開拓せらるゝに伴ひ本河の利用益々盛んさな

り産業上遺す可からざる價値を有する。

泊居支廳

管内概況

泊居支廳管内は面積四百四十七方里人口四萬六千六百十六人で大略樺太全島の五分一、一方里約八十三人の密度に當り、沿岸七十四里に亘つて鰊、鮭、鱈等の良漁場を有し、陸は各河川に沿ひ農牧適地又尠くない。農耕區劃數四千六百五十五戸、六千百四萬五千坪に及び、氣候概れ、本島の中位に在り。

沿岸一帶水流の影響に依り氣候緩和せられる許りでなく農作物の豊饒及住民の健康狀態は事實に於て氣候風土の良好と、適農地たることを立證し加之尚手古斧鉞を用ひたことのない森林があり、地下埋藏の鑛産物があり、本管内の將來は此の自然の天惠より觀察するときは洋々として期待すべきもの洵に尠くないのである。

視察個所及位置其の他

（イ）泊居町　戸數　二、八八三戸　人口　一〇、八七六人

西海岸北部の要地であつて、泊居支廳の所在地である。

近海漁業の發達と附近炭鑛の採掘、工業會社の設立等によつて漸次發展の途上にあつたが、大正七年支廳の久春内から此の地に移轉してより急激な發展をなした。然るに大正十一年十一月火災に罹り、其の主要部分を烏有に歸し、一時慘憺たる狀況にあつたが住民の發奮と當局の機宜の措地とに依り災前に倍した市街を建設し面目を改むるに至つた。泊居支廳の外泊居林務署、泊居郵便局、眞岡區裁判所泊居出張所、泊居町役場、公立高等女學校、樺太工業株式會社泊居工場、樺太汽船株式會社其の他新聞社、會社、工場等がある。出入港船舶頻々たり南業地として管内隨一の繁盛を示し、背後奥地には安藝川大榮炭山等がある。

（ロ）樺太工業株式會社泊居工場

本社は大正二年十二月の創立にかゝる。當地に本社を有し資本金七千萬圓の大會社である。本工場は當社に於ける最初の工場であつて、大正三年五月十八日工を起し、四年九月一日に至り操業を開始した。其の後歐州戰亂の影響を受けパルプの賣行盛んで社運隆々たるものがあつたが、大正十年二月二十二日不幸火災に見舞はれ、工場全部を烏有に歸し、一時工場の再起をさへ疑はれたが、同年十二月十五日には既に工場一部の運轉を見、翌年二月に至り全部の運轉を爲し從來の本造蘇藥に代つて全部を鐵筋混凝土に更め、泊居に於ける一偉觀を形成してゐる。昭和二年三月抄紙機一臺を增設して、包裝紙の抄造を爲すに至り、更に翌年十一月には晒室を增設從來の未晒パルプに加ふるに晒パルプの抄造を爲す樣になつた。

工場用地四十二萬三千坪、工場建物七千二百坪、工場從業員數約六百名、生產額パルプ三、九三二噸、製紙九五、九二六、九〇〇封度、價格八百八十三萬六千二百六十四圓に達す。

（八）久春内

人口二千六百三十人樺太に於て東西兩海岸に通ずる最も近き地點に在る關係上樺太開拓に於ける古い歷史を有する。元泊居支廳の所在地であつたことがある。附近には牧場地多く奥地には實澤の大農耕地がある。東海岸眞縫との國道八里有餘の間は自動車の往來頻る頻繁である。

（ニ）來知志湖　來知志河口を遡る一里餘の所に在り

周圍七里餘鬱蒼たる森林湖圍を繞り、白鳥時に來つて遊泳する。冬期四ヶ月を除くの外漁舟常に絶ゆること無く。湖口より來知志河口に至る間は滿々たる碧水岸を浸して、小舟發動機船等の往來繁く管内隨一の景勝地である。湖中には鱒、鮭、いとう其の他雜魚シヅミ貝等多く棲息する。

（ホ）惠須取

惠須取市街地は近年頓に發展した新興の地で各官公署、樺太工業株式會社惠須取工場、奥地には露天堀を以て名高い太平炭山等があつて繁盛を極め、將來尙益々發展すべき地である。特に夏期に於ては船舶の寄港頻繁で實に北方殷賑の樞地である。

眞岡支廳

管内概況

眞岡支廳は眞岡野田二郡を管轄し、二町四ヶ村を包括す。南北の最長二十五里東西の最も廣い處十一里狹い處六里面積百六十一方里で、東は西樺太山脈を以て榮濱郡及豐原郡に界し南は留多加郡及本斗郡北は泊居郡に接し西は間宮海峽を隔てて露領沿海洲と相對してゐる。

氣候温和で地味肥沃魚族亦豊富である爲め夙に移住者多く交通最も至便である。本島中開拓の進歩特に著しい。

管内は眞岡を中心として沿岸十數里に亘り、人家櫛比し山間に在つても數百戸の農村あり。戸數七千八百七十九戸、人口三萬九千六百六十四人である。之を本島總人口二十八萬四千九百三十一人に比較すれば約七分の一弱を占め、又本島一方里平均人口百七人に對し二百三十四人であつて本島中最も人口稠密な所である。

眞岡町　戸口　三、一五七戸
　　人口　一五、二三六人

樺太視察便覽

眞岡市街

眞岡町は地形南北に長く、東方一帶山陵起伏し、平地に乏しく、幅員甚だ狹く唯西方のみ一衣帶水を距て、沿海洲と相對して居る。眞岡港は西海岸樞要の港灣であつて、大正十年工費二百五十萬圓を以て樺太廳に於て之が工事に着手し昭和二年九月完成し、現在は二千噸級の汽船を繫留することが出來る。

視察個所位置及其の他

（イ）樺太工業株式會社眞岡工場
　　眞岡町字南濱町八丁目眞岡驛より四町

大正七年六月の創立にかゝる。同十年全燒したが十一年四月復舊工事を完成し、全部鐵筋コンクリートの大工場であつて其の規模の宏壯なること島内に名あり。最近に於ける本工

場の生産高を擧げると、昭和五年五千四百十七萬十八封度、價格六百二十一萬七千四百七十三圓で、從業員約七百三十人である。

（ロ）眞岡神社　眞岡町高臺なる山手町に鎭座す

境内の眺望秀麗なる淨地である。例祭日毎年七月十、十一日の兩日古式に依り盛大に執行し賽客雜踏を極め、稀に見るの式典である。

（ハ）宇遠泊中央試驗所支所　荒貝驛の北方一里宇遠泊河上流約半里の地點に在り

地味最も肥沃で用地約二萬一千五百三十六坪を有し、事業は主として種藝に關する試驗及配付、種苗の育牛等が其の主なるものであるが其の他馬匹緬羊等の家畜を飼育する。

（ニ）中央試驗所樂磨水産部　樂磨驛より約十町

鹽藏庫、燻製室、冷藏庫、漁廠、分析室等の建築物竪立し、一小部落を形成してゐる。水産物の製造、調査、養殖及各種試驗を行ふ。又水産加工品を便宜分讓する。

（ホ）王子製紙株式會社野田工場　野田驛より十町

從業員約二百九十名生産額亞硫酸パルプ一萬八千百五十五噸、製紙一、七九二、三三〇封度、價格二百八十一萬四千三百二十圓に達す。

（ヘ）多蘭泊土人部落　多蘭泊驛より七町

現在土人八十一戸三百四十二人居る。何れも漁業の傍ら農業を營みつゝある。尙兒童八十四人は土人教育所に於て教育しつゝある。

本斗支廳

管内概況

管内は本斗郡一圓であつて、樺太の最南部に位し、氣候温暖なること樺太第一位である。現今交通大いに開け、内地より移住する者多く人口一萬七千四百十五人産業は農業、漁業、林業であつて、其の年産額約三百萬圓に達す。商工業も逐年隆昌に赴き尙進境を示してゐる。尙本斗町は行政、商業及交通上の中心地を爲し繁華である。

視察個所位置及其の他

（イ）本　斗　港　本斗驛より十町

本斗は本島領有前に有つては、土人の散在部落に過ぎなかつたが附近の林産、水産、鑛産の豊饒なること世上に知らるゝに及び急激なる發展を遂げた西海岸南部の要地であつて、西海岸鐵道は此の地を起點として北走し内地との交通は稚斗運絡に依つて行はれてゐる樺太唯一の不凍港たる天惠の地位を占めてゐる。築港は大正五年工費二百五十萬圓を以て着手し昭和元年度第一期工事を完成す。支廳の外に林務署、警察署等あり。

（ロ）本斗公園　本斗驛より約三町

公園は本斗市街地裏山高地であつて、眺望極めて良く春より初秋に及んで遊覽するものが多い。公園内には過ぐる大正十四年八月畏くも聖上皇太子殿下に在します砌御展望在らせられ、近くは昭和四年七月伏見宮殿下の行啓御展望あらせられた所である。

（ハ）吐鯤保石油試錐場　本斗より約二十町自動車の便あり

試錐は日本石油會社の經營に據つて爲されつゝある。視察には冬季を除くの三季を可とす。尚附近には鑛泉の湧出ありて、四季浴客絶ゆ風景絶佳である。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

概要正誤表

頁數	行數	誤	正
本文四	六	降・水	降°水
七	一	驗・試・所	試°驗°所
四〇	四	六・蔗・種・	六°種°蔗°
四四	六	今・日	今°日
四六	六	方・	より°
五三	一二	降・雨	降°雨
五四	七	一・箱・	一°箱°
六三	四	撩・亂	繚°亂
七一	五	皆・地・	措°設°

昭和五年六月廿七日印刷
昭和五年七月一日發行

樺太廳

樺太豊原町大通南一丁目一番地
印刷人　岩船ナミ

樺太豊原町大通南一丁目一番地
印刷所　澤木商會印刷部

内閣文庫

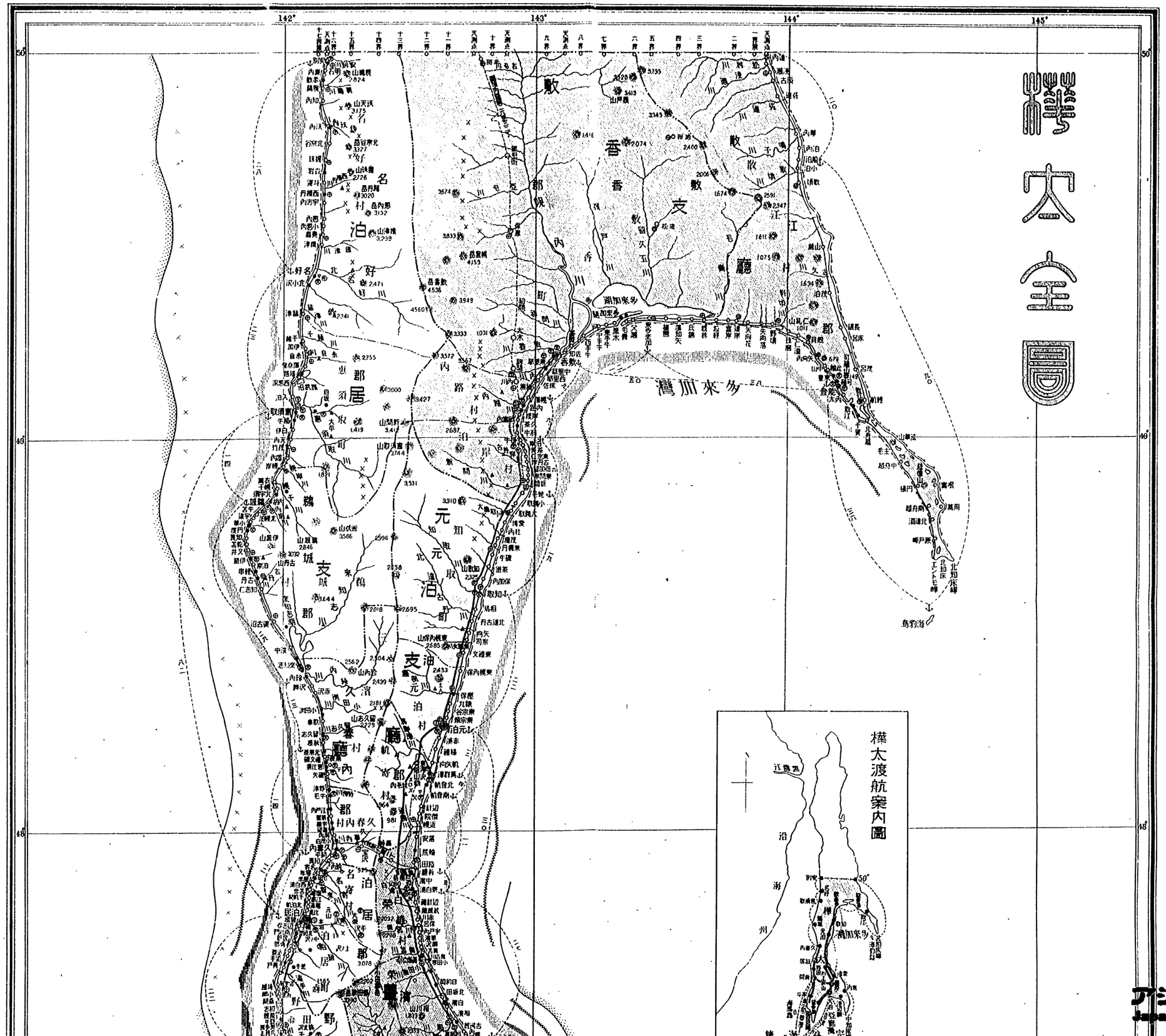
めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

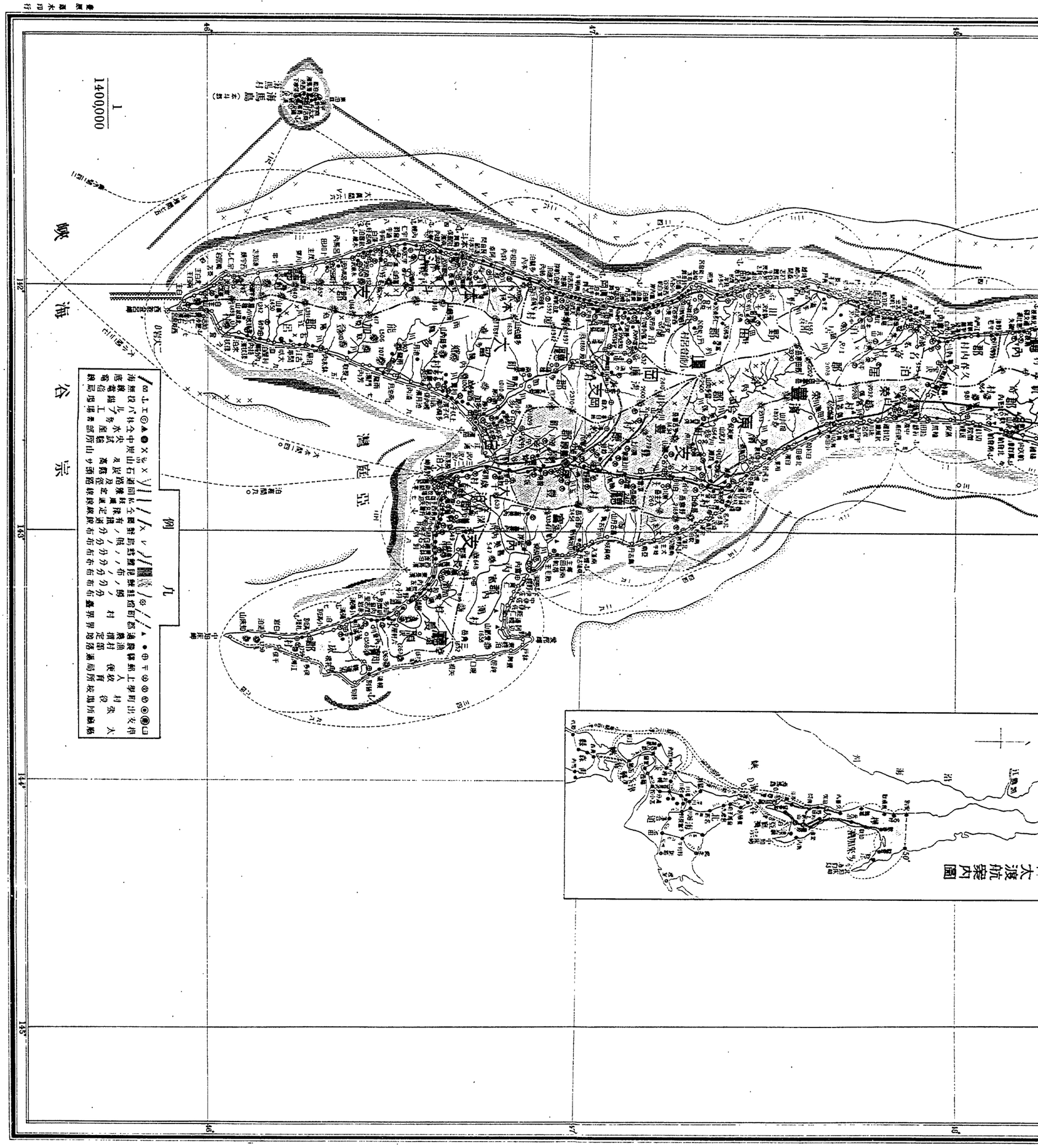
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

昭和六年　日誌

樺太全圖



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records



原画白紙